

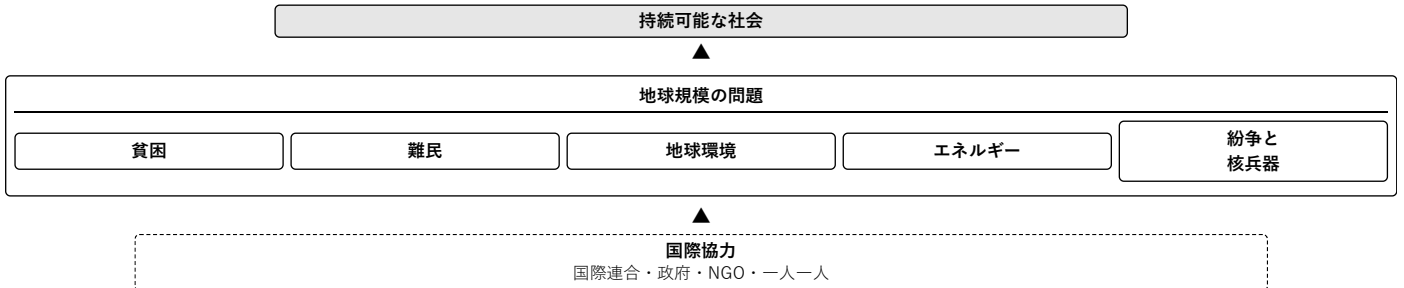
中学3年 社会 授業用プリント ⑪後半 さまざまな国際問題とこれからの地球社会

1 全体像	2～5 貧困と難民	6・7 地球環境	8・9 エネルギー	10・11 平和	12・13 日本の協力	14～16 多様性とまとめ
-------	-----------	----------	-----------	----------	-------------	---------------

1 この単元の全体像 — 地球規模の問題に、世界と日本はどう取り組んでいる？

このページのゴール この単元で学ぶ貧困・難民・地球環境・エネルギー・紛争と核兵器・日本の国際協力・文化の多様性と持続可能な社会を、ざっと言う

⑪前半では、国際社会のしくみを学びました。世界には、一つの国だけでは解決できない問題があります。この單元では、その問題と、世界と日本の取り組みを、全体の図で見わたしてから順に学びます。



① 貧困と難民 くわしくは2～5ページ

世界の貧困は、なぜ起こるのか。難民とは、どんな人々か。それぞれを、どう解決する？

② 地球環境とエネルギー くわしくは6～9ページ

気温が上がるのは、なぜ？ 世界はどう協力している？ エネルギーは、どう選ぶ？

③ 紛争と核兵器 くわしくは 10・11 ページ

冷戦の後、どんな争いが起きている？ 核兵器を減らす取り組みは？

④ 日本の国際協力 くわしくは12・13ページ

日本は、政府や民間の団体を通じて、どんな協力をしている？

⑤ 文化の多様性と持続可能な社会 くわしくは 14・15 ページ

ちがう文化の人と、どうともに生きる？ 世界が合言葉にしている目標は？

この単元の問い 地球規模の問題に、世界と日本はどう取り組んでいる？（答えは16ページ）

この単元の解説記事（図と例題つき）：[かてきょノート \(katekyo-note.com\)](https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad3%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e5%85%ac%e6%b0%91%e3%80%91%e5%9b%bd%e9%9a%9b%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%81%a8%e7) <https://katekyo-note.com/%e3%80%90%e4%b8%ad3%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%83%bb%e5%85%ac%e6%b0%91%e3%80%91%e5%9b%bd%e9%9a%9b%e7%a4%be%e4%bc%9a%e3%81%a8%e7>

2 世界の貧困とは？なぜ起こる？

このページのゴール 貧困と飢餓、貧困が起こる4つのわけ、貧困の悪循環を言える

① 貧困と飢餓

世界全体で食料が足りないからなのでしょうか。まず、言葉を確認めます。

貧困：食べ物・きれいな水・住まい・医療・教育など、人が生きていくのに必要な物を十分に得られない状態。1日の生活に使えるお金がとても少ない人々は、アフリカのサハラ砂漠より南の地域や南アジアに多い。**飢餓**（きが）：食べ物が足りず、栄養が不足して、健康や命がおびやかされている状態。子どもは、栄養が足りないと成長がおくれ、病気にかかりやすくなる。

② 貧困が起こる4つのわけ（いくつも重なって起こる）

① 人口の急な増加

途上国では人口が急に増え、食料の生産が追いつかない。

② 食料のかたより（偏り）

世界全体の穀物は、すべての人に必要な量を上回るといわれる。しかし豊かな国に多く集まり、家畜のえさにも使われる。食べられるのに捨てられる食品（食品ロス）も多い。

③ 紛争や自然災害

争い・干ばつ・洪水で、畑や家を失う。

④ 収入が不安定

モノカルチャー経済（⑩前半で学んだ）では、作物の値段が下がると収入が減る。

例（架空） E国のある地域では、20年で人口が2倍になったが、穀物のとれる量は1.2倍にしか増えなかった → 1人あたりの穀物は、 $1.2 \div 2 = 0.6$ 倍（6割）。

③ 貧困の悪循環

① 家が貧しい

② 子どもが学校に通えず、手伝いや仕事をする

③ 読み書きや計算、技術が身につかない

もう一度 ① へ
(次の世代へ続く)

⑤ 貧しいまま

④ 大人になっても収入の多い仕事につけない

貧困は、生まれた国や家で必要な物が手に入らない、④で学んだ「公正」でない状態です。

注意 × 貧困は、世界全体で食料が足りないことだけが原因 ○ 世界全体では足りるといわれる量の穀物が生産されている。かたより・紛争・人口の急な増加などが重なって起こる

合言葉 「貧しさは、いくつも重なって起こり、くり返す」

→ まとめ：貧困は、人口の増加や食料のかたよりなどが重なって起こり、悪循環が続く

3 貧困をなくすために、どんな取り組みがある？

このページのゴール フェアトレードとマイクロクレジットのしくみと、効率と公正の見方を言える

① 自立を助ける取り組み

豊かな国からの援助（ODA など。12ページ）だけでなく、途上国の人々が自分で収入を得て自立できるしくみが大切です。①前半の「配るより、育てる援助」の考え方です。

フェアトレード（公正な貿易）：途上国の生産者がつくった農産物や製品を、生産者の生活が成り立つ適正な価格で、続けて買う取り組み。

例：コーヒー豆・カカオ豆・綿・手工芸品。

ふつうの取引

値段は、その時の市場で決まる。値段が下がると、生産者の収入も下がり、暮らしが不安定になる。

フェアトレード

生活が成り立つ最低の値段を約束する。市場の値段が下がっても、収入が安定し、子どもを学校に通わせたり、よい作物をつくるためにお金を使ったりできる。

消費者は、フェアトレードのしるしのついた商品を選ぶことで参加できます。

例（架空） コーヒー豆の市場の値段が1kgあたり200円に下がっても、フェアトレードでは300円より安くは買わないと約束する。生産者は、値段が下がった年も、前の年と同じように暮らしを立てられる。

② 担保なしで貸す — マイクロクレジット

マイクロクレジット：お金を借りる時にふつう必要な担保（たんぼ。返せない時の代わりになる土地などの財産）をもたない貧しい人々に、担保なしで少しのお金を貸すしくみ。

- ① 担保がなく、ふつうの銀行ではお金を借りられない。
- ② 担保なしで、少しのお金を借りる。
- ③ そのお金でミシンや家畜などを買い、小さな仕事を始める。
- ④ 仕事の収入から、少しずつ返す。
- ⑤ 自分の力で暮らせるようになる。

バングラデシュの銀行（グラミン銀行）がこのしくみを広め、2006年にノーベル平和賞を受けました。

限られた援助は、むだなく使う（効率）と、困っている人に届ける（公正）の両方で考えます（④）。

注意 × フェアトレードは、途上国の商品をできるだけ安く買う取り組み ○ 生産者の生活が成り立つ適正な価格で、続けて買う取り組み

合言葉 「公正な値段で買い、担保なしで貸す」

→ まとめ：フェアトレードやマイクロクレジットで、自分の力で収入を得られるしくみが大切

4 難民とは？なぜ生まれる？

このページのゴール 難民と国内避難民のちがい、生まれるわけ、難民条約と UNHCR を言える

① 難民とは

難民：紛争（争い）や、人種・宗教・国籍・政治的な意見などを理由とする**迫害**（命や自由をおびやかされること）をのがれるために、住んでいた国をはなれ、国境をこえてほかの国ににげた人々。 国の外へ出られず、同じ国の中のほかの地域ににげた人々は**国内避難民**（ひなんみん）という。

② 難民が生まれるわけと暮らし

難民が生まれるのは、地域紛争や内戦（10ページ）と迫害のためです。冷戦が終わった後、地域紛争が増え、難民も多く生まれるようになりました。

- ① 紛争（争い）や迫害（はくがい）が起こる。
- ② 命や自由が、あぶなくなる。
- ③ 国境をこえて、ほかの国ににげる。
- ④ 難民キャンプ（テントなどの仮の住まいが集まった所）で、長い間帰れずに暮らす。

難民の暮らしには、にげる途中の危険、食料・水・医療の不足、子どもが学校に通えない、仕事がない、といった課題があります。



難民キャンプのテント
(アルバニア・1999年)
写真：Staff Sgt. Chris Steffen, U.S. Air Force (パブリックドメイン)。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

③ 難民を守る — 難民条約と UNHCR

名前	いつ	何をする
難民条約 （難民の地位に関する条約）	1951年に採択。日本は1981年に加わった	難民を、命や自由がおびやかされる国へ無理に送り返してはならないことなどを定めた
UNHCR （国連難民高等弁務官事務所）	1950年につくられた国連の機関	難民を保護し、食料・水・テント・医療などを届け、難民が自分の国に帰ったり、ほかの国で暮らしたりできるよう助ける

日本人の緒方貞子は、1991～2000年に国連難民高等弁務官（UNHCR の代表）をつとめました。

注意 × 同じ国の中のほかの地域ににげた人も、難民とよぶ ○ 国境をこえてほかの国ににげた人が難民。国の中ににげた人は国内避難民

合言葉 「国境をこえてにげれば難民、守るのは UNHCR」

→ まとめ：紛争や迫害で国境をこえてにげた人が難民で、UNHCR が保護や支援を行う

5 難民の問題を、どう解決する？

このページのゴール 解決の3つの道、受け入れる国の課題、協調と持続可能性から見た取り組み、日本の取り組みを言える

① 解決の3つの道

4ページで見たように、難民は長い間、帰れないことがあります。解決には、3つの道があります。

道	どんな時	課題
① 自分の国に帰る	紛争が終わり、安全になってから	帰った後に自分の力で暮らせるよう、教育や職業の訓練が要る
② にげた先の国で暮らし続ける	帰れる見通しが立たない時	受け入れた国に、住まい・食料・学校などの費用と負担が集まる
③ ほかの国（第三の国）に移って暮らす（第三国定住）	にげた先の国で暮らし続けることがむずかしい時	移った先で自分の力で暮らせるよう、教育や職業の訓練が要る

② 受け入れる国の課題と、これからの取り組み

受け入れる国の課題 難民の多くは、 近くの国 （途上国が多い）ににげる。そのため、その国に住まい・食料・学校などの費用と 負担 が集まる。言葉や文化のちがいが、仕事の取り合いへの不安から、受け入れに反対する声が出ることもある。	これからの取り組み 一つの国に負担が集まらないよう、多くの国が費用や受け入れを分け合う（ 国際協調 ）。帰った後や移った先で自分の力で暮らせるよう、教育や職業の訓練を続ける（ 持続可能性 ）。
---	--

いちばんの解決は、難民を生む紛争を終わらせ、起こさないことです（10ページ）。

例（架空） I国に、となりの国から多くの人のがにげてきた。I国だけでは学校や住まいが足りない → ほかの国々が費用を出し、一部の人をほかの国が受け入れた。

③ 日本の取り組み

- 1981年に難民条約に加わりました。
- UNHCR にお金を出しています。
- アジアの難民をほかの国から受け入れる第三国定住を、2010年から行っています。

日本が難民と認める人の数は、ほかの先進国とくらべて少ないと指摘されています。

注意 × 難民の多くは、遠くの豊かな先進国ににげている ○ 多くは近くの国（途上国が多い）ににげ、その国に負担が集まる

合言葉 「帰る・とどまる・移る、負担はみんなで分け合う」

→ まとめ：難民問題は、帰る・とどまる・移る道があり、国々が負担を分け合って解決をめざす

6

地球温暖化とは？ほかにどんな環境問題がある？

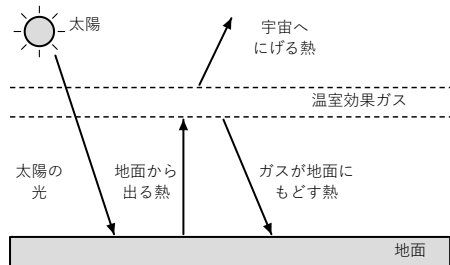
このページのゴール

地球温暖化のしくみ・影響と、酸性雨など4つの環境問題の原因と被害を言える

①

地球温暖化のしくみ

地球温暖化：二酸化炭素・メタンなどの温室効果ガスが大気中に増え、地球の平均気温が上がること。温室効果ガスは、地面から出る熱の一部をとらえて地表をあたためる（温室効果）。このはたらきで、地球は生き物がすめる気温に保たれているが、ガスが増えすぎると熱がこもり、気温が上がりすぎる。



ガスが増えると、地面にもどる熱が増え、気温が上がります。

増えたわけ産業革命の後、石炭・石油・天然ガス（化石燃料。8ページ）を大量に燃やすようになった。二酸化炭素を吸収する森林が減った。

おもな影響

- ・海面の上昇：氷がとけ、海水がふくらむ。海拔の低い島国（ツバルなど）や海岸の低い土地が水につかるおそれがある。
- ・異常気象：大雨・洪水・干ばつ・熱波が増える。農作物のとれる量や、生き物のすみ場所も変わる。

②

ほかの地球環境問題

環境問題は国境をこえて広がり、一つの国だけでは解決できません。これを地球環境問題といいます。

問題	原因	被害や広がり
<u>酸性雨</u>	工場や自動車から出るガスがとけた、強い酸性の雨	森林が枯れる・湖の魚が減る・建物や銅像をいためる。風に乗って国境をこえる
<u>オゾン層の破壊</u>	フロンガスなどでオゾン層がこわされる	有害な紫外線が増え、皮ふの病気などの原因になる
<u>砂漠化</u> （さばくか）	家畜の放牧のしすぎ・畑のつくりすぎ・木の切りすぎや干ばつ	草や木の育たない土地が広がる（アフリカのサハラ砂漠の南のふちなど）
<u>熱帯林の減少</u>	木材をとる・畑や牧場を開くために切りはらう	二酸化炭素を吸収する森林が減り、温暖化も進む（南アメリカのアマゾン川の流域・東南アジアなど）

注意

× 温室効果ガスは、地球にとって無い方がよい気体である ○ 適度な温室効果で、生き物がすめる気温が保たれている。増えすぎることが問題

合言葉

「ガスが増えれば熱がこもる」

→ まとめ：温室効果ガスが増えて地球温暖化が進み、国境をこえる環境問題が広がっている

7 環境を守るため、世界はどう協力してきた？

このページのゴール 国連人間環境会議・地球サミット・京都議定書・パリ協定の年と中身、先進国と途上国の対立、温暖化への2つの対策を言える

① 国際会議と取り決めの流れ

年	会議・取り決め	場所	決めたこと
1972年	<u>国連人間環境会議</u>	スウェーデンのストックホルム	「かけがえない地球」をかけ声に、初めて環境問題を話し合った国連の大きな会議
1992年	<u>国連環境開発会議（地球サミット）</u>	ブラジルのリオデジャネイロ	「持続可能な開発」（15ページ）の考え方のもとで、温暖化を防ぐための <u>気候変動枠組条約</u> （わくぐみじょうやく）などに多くの国が署名した
1997年	<u>京都議定書</u> （ぎていしよ）	京都で開かれた会議で採択	<u>先進国に</u> 、温室効果ガスの排出量を減らすことを義務づけた
2015年	<u>パリ協定</u>	パリで開かれた会議で採択（2016年に効力をもった）	<u>途上国をふくむすべての参加国が</u> 、温室効果ガスを減らす目標を自分で決めて取り組む

決まりの対象が先進国だけか、すべての参加国かで、取り決めを見分けます。

② 先進国と途上国の対立

途上国の言い分 温暖化の原因の多くは、 昔から 化石燃料を大量に使ってきた先進国にある。 わたしたちは 経済発展 のためにエネルギーが必要だ。	先進国の言い分 新興国（⑪前半）などの排出も増えている。すべての国が減らさないと、温暖化は止められない。
--	--

③ 温暖化への2つの対策

温室効果ガスを減らす取り組み（緩和策） 家庭で省エネルギーの電気製品を使う／ガソリン車を電気自動車に替える／森林を育てて二酸化炭素を吸収させる	温暖化で起こる被害に備え、小さくする取り組み（適応策） 暑さに強い稲の品種を育てる／熱中症を防ぐために日かげや休む場所をつくる／高潮に備えて堤防を高くする
---	---

両方が要ります。ガスを減らしても、すでに進んだ変化はすぐには止まらないからです。取り組みが、ガスを減らす物か、被害に備える物かで分けます。

注意 × 京都議定書では、途上国もふくむすべての国に、温室効果ガスを減らす義務があった ○ 減らす義務は先進国。すべての参加国が目標を決めて取り組むのはパリ協定

合言葉 「京都は先進国、パリはすべての国」

→ まとめ：京都議定書からパリ協定へ。ガスを減らす取り組みと被害に備える取り組みの両方が要る

8 エネルギーの資源には、どんな課題がある？

このページのゴール 化石燃料の3つの課題、日本のエネルギーの特色、発電方法ごとの長所と短所、2011年の原子力発電所の事故を言える

① 化石燃料の3つの課題

中2の地理で学んだ火力発電は、石炭・石油・天然ガスを燃やして電気をつくります。

化石燃料（かせきねんりょう）：石炭・石油・天然ガス。大昔の動植物の死がいなどが、長い年月をかけて変化してできた。今の世界のエネルギーの中心。課題は3つある。

- ① **出す**
燃やすと二酸化炭素を出す。温暖化の原因になる（6ページ）。
- ② **限る**
埋蔵量（まいぞうりょう。地下にあって、とれる量）に限りがあり、いつかはなくなる。
- ③ **かたよる**
とれる場所がかたよる。石油は西アジアのペルシア湾岸に多い。

とれる場所がかたよるので、争いや値段の大きな変化の原因になります。歴史で学んだ1973年の石油危機がその例です。日本は、石油・石炭・天然ガスのほとんどを外国からの**輸入**にたよっています（エネルギー自給率が低い）。

例（架空） J国は、電気の8割を石油の火力発電でつくり、石油は全部輸入している → 石油の**値段**が2倍になると、電気をつくる費用が大きく上がる。

② 発電方法の長所と短所

発電方法	長所	短所
火力	必要な時に必要な量を発電しやすい	二酸化炭素を多く出す。燃料の多くを輸入している
水力	二酸化炭素を出さない	ダムをつくれる場所が限られ、周りの自然や村に影響する
原子力	少ない燃料で多くの電気をつくれる。発電の時に二酸化炭素を出さない	事故が起きると放射性物質（ほうしゃせい）が広がり、被害が大きく長く続く。使い終わった燃料など放射性廃棄物の処分が大きな課題

③ 2011年の原子力発電所の事故

2011年の東日本大震災で、福島第一原子力発電所の事故が起こり、放射性物質が広がって、多くの人が避難しました。そのため原子力発電の安全性が見直され、多くの原子力発電所が運転を止めました。

注意 × 原子力発電は、発電の時に二酸化炭素を出さないで、課題はない ○ 事故の被害が大きく長く続くこと、放射性廃棄物の処分が大きな課題

合言葉 「化石燃料は、出す・限る・かたよる」

→ まとめ：化石燃料には限りがあり、日本は輸入にたよる。発電方法には長所と短所がある

9 これからのエネルギーを、どう選ぶ？

このページのゴール 再生可能エネルギーの種類と長所・課題、省エネルギー、エネルギーを選ぶ4つの見方を言える

① 再生可能エネルギー

再生可能エネルギー：太陽光・風力・地熱・水力・バイオマスなど、自然の力でくり返し使え、なくならないエネルギー。発電の時に二酸化炭素をほとんど出さない（バイオマスは燃やすと出すが、もとの植物が育つ時に吸収した分とされる）。

種類	何の力	課題
太陽光	太陽の光	夜や雨の日は発電量が少ない
風力	風の力	風しだいで発電量が変化する
地熱	地下の熱	適した場所が火山の近くに限られる
水力	水の力	ダムをつくれる場所が限られる
バイオマス	木くずや家畜のふんなど、生物からできる物を燃料にする	発電の費用が高くなりやすい



風力発電の風車
(北海道)
写真：夢の散歩 (CC BY-SA 3.0)。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

同じ暮らしを、より少ないエネルギーで送る工夫も大切です（**省エネルギー**）。LED の照明、熱がにげにくい家、電車やバスを使うことなどがあります。

② エネルギーを選ぶ4つの見方

日本の政府は、エネルギーを選ぶ時に、次の4つの見方を大切にしています。

見方	何を考えるか
安全	事故が起きにくく、起きてても被害が小さい
安定して届く	いつでも必要な量を手に入れられる。輸入先を1つの国にたよらない
費用	安く使える（発電にかかる費用をくらべる）
環境	温室効果ガスを出さない（再生可能エネルギーをふやす）

どの発電方法も、4つ全部を満たすのはむずかしいので、いくつかを組み合わせます。将来の世代も使えるように考えることが、**持続可能性**です。

注意 × 再生可能エネルギーは、天気に関係なく、いつでも同じ量の電気をつくれる ○ 太陽光や風力は、天候や時間で発電量が変化する

合言葉 「くり返し使えるが、天気まかせ」

→ まとめ：再生可能エネルギーと省エネルギーを進め、4つの見方で組み合わせて選ぶ

10 冷戦の後、どんな争いが起きている？

このページのゴール 地域紛争とテロ、新しい戦争、紛争がもたらすこと、平和への取り組みを言える

① 冷戦の後の世界

	冷戦中（アメリカとソ連の対立。歴史で学んだ）	冷戦の後（冷戦は1989年に終わった）
争い	アメリカとソ連が、世界を二つに分けて対立した。大国どうしの大きな戦争のおそれ	民族や宗教のちがいが、資源などをめぐる、国の中や近い国どうしの争い（地域紛争・内戦）が多く起こるようになった

地域紛争：国の中や、近い国どうしの争い。起こるわけは、民族や宗教のちがいが、対立、石油などの資源や土地・水をめぐる争い、政府への不満、貧しさ（2ページ）など。

テロ（テロリズム）：政治的な目的のために、暴力で人々をおそい、恐怖をあたえる行為。2001年9月11日に、アメリカで同時多発テロが起こった。

国と国の戦争だけでなく、国と、国ではない集団（テロ組織など）との争いも起こるようになりました（**新しい戦争**）。戦場とふだんの暮らしの場の区別がつきにくく、一般の人々がまきこまれます。

② 紛争がもたらすこと — 紛争と貧困の悪循環

- ① 多くの人が命を失う。子どもが兵士にされることもある。
- ② 家や畑・学校・病院がこわされ、難民が生まれる（4ページ）。
- ③ 貧しさが深まる（2ページ）。
- ④ 不満から新しい争いが起こる。

③ 地雷と平和への取り組み

地雷（じらい）：地中にうめ、ふむと爆発する兵器。争いが終わった後も残って、人々を傷つける。対人地雷禁止条約（1997年）は、民間の団体（NGO。13ページ）の働きかけで結ばれ、日本も加わった。

平和のために、国際連合のPKO（⑪前半）や話し合いでの解決が進められます。紛争の後は、地雷を取り除く、学校や道路をつくり直す、元の兵士に職業の訓練をするなどの立て直しも大切です。

注意 × 冷戦が終わってから、世界の争いはほとんどなくなった ○ 国と国の大きな戦争のおそれは小さくなったが、地域紛争やテロが増えた

合言葉 「冷戦の後は、地域紛争とテロ」

→ まとめ：冷戦の後、地域紛争やテロが増え、紛争は貧困や難民の問題とつながっている

11 核兵器をなくすため、どんな取り組みがある？

このページのゴール 核兵器の広がりや軍縮、核拡散防止条約・包括的核実験禁止条約・核兵器禁止条約、非核三原則、日本の役割を言える

① 核兵器と軍縮

1945年、アメリカが広島・長崎に原子爆弾を落とし、多くの方が亡くなりました（歴史で学んだ）。冷戦中に、アメリカとソ連が核兵器を大量につくり、イギリス・フランス・中国も持つようになりました。

軍縮（ぐんしゅく）：兵器を減らすこと。核兵器をめぐる、次の条約が結ばれてきた。

年	名前	何を禁止した
1963年	部分的核実験禁止条約	地下を除く、大気中・宇宙・水中での核実験
1968年	核拡散防止条約 （NPT）	核兵器を持つ国が増えないよう、アメリカ・ソ連（今のロシア）・イギリス・フランス・中国の5か国のほかの国が、核兵器を持つこと
1996年	包括的核実験禁止条約（CTBT）	爆発をとまなうすべての核実験（まだ効力をもっていない）
2017年	核兵器禁止条約	核兵器の開発・実験・保有・使用などを 全面的に禁止 。2021年に効力をもった。核兵器を持つ国や、日本は参加していない

核兵器がなかなか減らないのは、「相手が持っている、自分も持たないと攻められる」という考え（核抑止〔よくし〕）があるためです。それでも、話し合いで少しずつ減らす努力が続いています。

② 日本の役割

非核三原則：核兵器を「持たず、つくらず、持ちこませず」。1971年に国会で決議した日本の方針。

日本は、**原子爆弾**を落とされた唯一の戦争**被爆国**（ひばくこく）として、核兵器のない世界をうたえています。広島・長崎の平和記念式典が毎年開かれ、原爆ドームは世界遺産になっています。



原爆ドーム
（広島県 広島市）
写真：Jakub Hafun (CC BY 4.0)。Wikimedia Commons より、白黒にして切り取った

注意 × 核拡散防止条約は、すべての国に、核兵器を持つことを禁止した ○ 禁止したのは、アメリカ・ロシア（当時ソ連）・イギリス・フランス・中国の5か国のほかの国が持つこと。全面的に禁止したのは核兵器禁止条約

合言葉 「持たず、つくらず、持ちこませず」

→ まとめ：核兵器を減らす条約が結ばれ、日本は非核三原則をかげて核兵器のない世界をうたえる

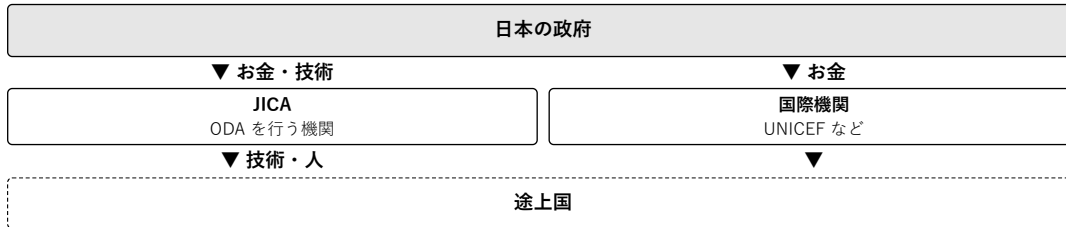
12 日本は、どんな国際協力をしている？①

このページのゴール ODA の中身と特色、JICA と青年海外協力隊、ODA の課題を言える

① ODA とは

⑪前半で学んだ「自立につながる援助」の考え方を、日本の政府は ODA で進めています。

政府開発援助 (ODA)：政府が、途上国の発展や暮らしの向上のために行う、お金（返さなくてよい資金・低い利子で長く貸す資金）や技術の援助。



日本の ODA でつくられた橋
(カンボジア)

写真：Kiensvay (CC BY-SA 3.0)。
Wikimedia Commons より、
白黒にして切り取った

日本の ODA は、**アジアの国々を中心に**、道路・橋・港・発電所・上下水道などをつくる援助や、病院・学校、農業の技術を教える援助を続けてきました。相手の国が自分の力で発展する（自立）ことを助けるのが、日本の考え方です。

1990年代には、日本の ODA の額は世界で最も多くなりました。日本は ASEAN（⑪前半）に入っていませんが、その国々に多くの ODA を行い、結び付きを強めてきました。

② JICA と青年海外協力隊

国際協力機構 (JICA)：日本の ODA を行う機関。その活動の一つの**青年海外協力隊 (JICA海外協力隊)**は、農業・教育・医療・スポーツなどの知識や技術をもつ人を途上国に送り、現地の人と一緒に働きながら教える。

③ ODA の課題

- 大きなダムや道路をつくる時は、住む場所を失う**住民**や、周りの**自然**への影響に気をつける。
- 援助が、本当に困っている人に届いているかを確認する。
- 日本の財政が苦しい中（⑩後半）で、税金を使う ODA にどれだけお金を出すかを考える。

注意 × ODA は、お金を送るだけの援助である ○ 技術を教える・人を送る援助もある

合言葉 「ODA は政府から、JICA が人を送る」

→ まとめ：日本は ODA で、アジアを中心に途上国の自立を助けている

13 日本は、どんな国際協力をしている？②

このページのゴール NGO の働きと ODA とのちがい、人間の安全保障、日本の国際貢献を言える

① NGO の働き

NGO（非政府組織）：政府から独立した民間の団体で、国境をこえて、医療・教育・難民の支援・地雷の除去・環境を守る活動などを行う。利益を目的とせず、お金の多くは人々からの寄付。例：国境なき医師団（紛争や災害が起きた地域に、医師や看護師を送って医療を行う。1999年にノーベル平和賞）。

	ODA	NGO
行うのは	政府	民間の団体
得意なこと	大きな事業（道路・発電所など）	住民に近い所で、細かく素早く動くこと

② 人間の安全保障

人間の安全保障：国が軍事的などで国を守る（国家の安全保障）だけでなく、そこに住む一人一人の人間に目を向け、紛争・貧困・飢餓・病気・災害などから、その人の命や暮らし、尊厳（そんげん）を守り、人々が自分の力で生きていけるようにする考え方。

国家の安全保障 だれを守る：国。何から：外国からの攻撃など。どうやって：軍事的などで。	人間の安全保障 だれを守る：一人一人の人間。何から：紛争・貧困・飢餓・病気・災害など。どうやって：命や暮らしを守り、自分の力で生きていけるようにする。
---	---

冷戦が終わった後の1990年代に国連で広まり、日本は外交の柱の一つとしてきました。

③ 日本の平和主義と国際貢献

日本国憲法は、戦争を放棄し、平和主義をかかげています（⑤で学んだ）。憲法は、つくられてから一度も改正されていません。日本は、武力の行使ではなく、ODA・PKO への参加（⑩前半）・NGO の活動・核兵器のない世界のうたえ（11ページ）・防災や環境の技術を伝えることなどで、世界の平和と発展に協力します。

注意 × 人間の安全保障は、軍隊を強くして国を守る考え方 ○ 一人一人の人間の命や暮らしを、紛争・貧困・病気などから守る考え方

合言葉 「国だけでなく、一人一人を守る」

→ まとめ：NGO も国境をこえて活動し、日本は人間の安全保障の考え方を生かして協力する

14 ちがう文化の人と、どうともに生きる？

このページのゴール 文化の多様性、宗教と暮らしの決まり、偏見と差別、異文化理解と多文化共生を言える

① 文化の多様性と宗教

文化の多様性（たようせい）：世界には、さまざまな言語・宗教・生活習慣・価値観をもつ人々がいること。どの文化にも、その土地の自然や歴史の中で育ったわけがあり、優れている・劣っているはない。

宗教は、暮らしの決まりと深くかかわっています（中1地理で学んだ）。

宗教	暮らしの決まりの例
キリスト教	日曜日に教会で礼拝する人が多い。クリスマスを祝う
イスラム教	1日5回の礼拝。 豚肉を食べない 。酒を飲まない。ラマダン（断食をする月）がある
仏教	寺でお経を読む
ヒンドゥー教	牛を神聖な動物とし、牛肉を食べない 。インドに多い

② 多様性を尊重しないと

自分の文化を基準にして、ほかの文化を低く見たり、決めつけたりすると、**偏見**（へんけん）や**差別**が生まれ、**対立や紛争の原因**にもなります（10ページ）。そこで、ちがう文化について知り、そのわけを考え、たがいに尊重し合うこと（**異文化理解**）が大切です。

多文化共生（きょうせい）：国籍や民族などのちがう人々が、たがいの文化のちがいを認め合い、地域の一員として、ともに生きていくこと。日本にも、外国から来て暮らす人が増えている。

例（架空） ある中学校では、宗教の決まりで食べられない物がある生徒のために、給食に使った食材を毎日の献立表に書いている。

UNESCO（⑪前半）は、世界遺産などで各地の文化を守っています。

注意 × 自分の国の文化に合わない習慣は、まちがった習慣である ○ どの文化にも、その土地の自然や歴史から生まれたわけがある

合言葉 「ちがいを知って、認め合う」

→ まとめ：文化の多様性を認め合い、ともに生きる多文化共生をめざす

15 持続可能な社会をつくるために、何をめざす？

このページのゴール 持続可能な社会、SDGs（2015年・2030年・17の目標・だれ一人取り残さない）、この単元の問題と目標のつながりを言える

① 持続可能な社会と SDGs

ここまで見た問題は、どれも「これから暮らし続けられる世界か」という問いにつながります。

持続可能な社会：将来の世代の人々の暮らしをそこなわずに、今の世代の人々の必要を満たすことのできる社会。環境・経済・社会（人権や平和）のどれか1つではなく、全部のつり合いをとる。

持続可能な開発目標（SDGs）：2015年に国連で採択された、2030年までに達成をめざす17の目標（目標の下に169のくわしいターゲット）。かけ声は「だれ一人取り残さない」。

② 17の目標

1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	

③ この単元とのつながりと、私たちにできること

目標1・2=2・3ページ／目標13=6・7ページ／目標7=8・9ページ／目標16=10・11ページ／目標17=12・13ページ／目標10=14ページ。

私たちにできること（例）：食べ残しをしない（目標12）・フェアトレードのしるしのついた商品を選ぶ（目標1・12）・使っていない部屋の電気を消す（目標7・13）・ちがう文化の人の話を聞く（目標10・16）。

注意 × SDGs は、途上国だけが取り組む目標である ○ 先進国もふくむすべての国、政府・企業・一人一人が取り組む

合言葉 「2030年へ17の目標、だれ一人取り残さない」

→ まとめ：SDGs の17の目標で、持続可能な社会をめざす

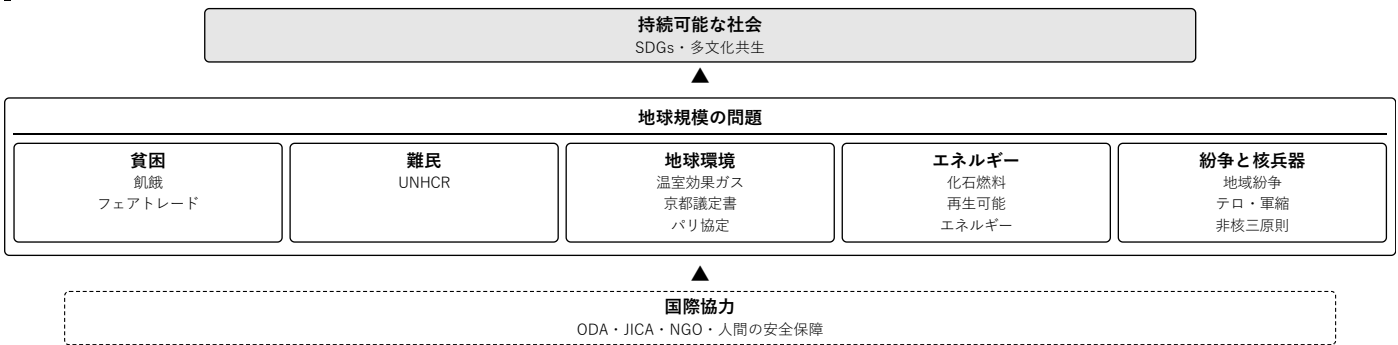
16 地球規模の問題に、世界と日本はどう取り組んでいる？

このページのゴール ステップチャートで2～15ページをつないで、1ページの問いに答えられる

① ステップチャート

① 貧困は、人口の増加や食料のかたよりなどが重なって起こり、フェアトレードなどで自立を支える	くわしくは2・3ページ
② 紛争や迫害で難民が生まれ、UNHCR と国々が協力して保護し、受け入れる	くわしくは4・5ページ
③ 温室効果ガスが増えて地球温暖化が進み、京都議定書・パリ協定で減らす取り組みが進む	くわしくは6・7ページ
④ 化石燃料には限りがあり、再生可能エネルギーと省エネルギーを進める	くわしくは8・9ページ
⑤ 冷戦の後、地域紛争やテロが増え、核兵器を減らし、なくす取り組みが続く	くわしくは10・11ページ
⑥ 日本は ODA で途上国の発展を支え、NGO も国境をこえて活動する	くわしくは12・13ページ
⑦ 文化の多様性を認め合い、ともに生きる	くわしくは14ページ
⑧ SDGs の17の目標で、持続可能な社会をめざす	くわしくは15ページ

② 地球規模の問題の全体図



③ 問いの答えの例

貧困・難民・地球環境・エネルギー・紛争のような地球規模の問題は、国境をこえて広がり、一つの国だけでは解決できません。そこで、国際連合や各国の政府、NGO、そして一人一人が協力し、フェアトレードや難民の保護、温室効果ガスを減らす取り組み、軍縮などに取り組んでいます。日本は、平和主義のもとで ODA や人間の安全保障の考え方を生かして協力しています。めざすのは、SDGs がかけがる、だれ一人取り残さない持続可能な社会です。

答えと解説は21・22ページ（11枚目の紙）にあります。【 】は、わからないときに読み直すページです。

(1) 食べ物が足りず、栄養が不足して、健康や命がおびやかされている状態を、何といいますか。

- (4) P国の生産者がつくったバナナを、日本の店が、生産者の生活が成り立つ値段で、毎年続けて買い取っています。このような取り組みを、何といいますか。

- (1) 難民が生まれるおもなわけを、2つ選びなさい。 _____

- (1) 温室効果ガスにふくまれる物を、2つ選びなさい。 _____

- 17

確認問題② 資源とエネルギー・紛争と核兵器

3 地球環境問題について答えなさい。(つづき)。【6・7ページ】

- (5) 京都議定書で、温室効果ガスを減らす義務を負った国々を、1つ選びなさい。
ア 国際連合に加盟していない国 イ 先進国 ウ 途上国 エ 国際連合の常任理事国だけ
- (6) 温室効果ガスの削減で、途上国が主張してきたことを、「昔から」「経済発展」を使って書きなさい。

4 資源とエネルギーについて答えなさい。【8・9ページ】

- (1) 化石燃料の課題として、正しくない物を1つ選びなさい。
ア 天候によって発電量が大きく変わる
イ 燃やすと二酸化炭素を出す
ウ 埋蔵量に限りがある
エ とれる場所がかたよっている
- (2) 日本で、化石燃料にたよりすぎると心配されるのは、なぜですか。「輸入」「値段」を使って書きなさい。
- (3) ある発電方法は、少ない燃料で多くの電気をつくれますが、事故が起きると被害が大きく長く続きます。この発電方法を、1つ選びなさい。
ア 火力
イ 水力
ウ 原子力
エ 風力
- (4) 再生可能エネルギーにふくまれない物を、1つ選びなさい。
ア 地熱
イ 太陽光
ウ 風力
エ 天然ガス
- (5) 木くずや家畜のふんなど、生物からできる物を燃料にするエネルギーを、何といいますか。 _____
- (6) 燃料を1つの国からの輸入にたよらず、いくつもの国から買えるようにする考えは、エネルギーを選ぶ4つの見方のどれを重く見た物ですか。1つ選びなさい。
ア 安全
イ 安定して届く
ウ 費用
エ 環境

5 紛争と核兵器について答えなさい。【10・11ページ】

- (1) 冷戦が終わった後に増えた争いの説明として、正しい物を1つ選びなさい。
ア 民族や宗教のちがいが、資源などをめぐり、国の中や近い国の間で争いが起こる
イ アメリカとソ連が、世界を二つに分けて対立した
ウ ヨーロッパの国々が、植民地を広げようと争った
エ 国際連盟の決定にしたがい、加盟国が戦った
- (2) 2001年9月11日にアメリカで、乗っ取られた旅客機が高層ビルなどにつっこむ事件が起こりました。この事件を、何といいますか。 _____
- (3) 争いが終わった後も土の中に残り、1997年に条約で禁止された兵器を、何といいますか。 _____
- (4) 1968年に採択され、核兵器を持つ国が増えないようにした条約を、1つ選びなさい。
ア 部分的核実験禁止条約 イ 包括的核実験禁止条約 ウ 核拡散防止条約 エ 核兵器禁止条約
- (5) 核兵器禁止条約について、正しい物を1つ選びなさい。
ア 5か国以外の国が核兵器を持つことだけを禁止した
イ 地下を除く核実験を禁止した
ウ 1968年に採択された
エ 核兵器の開発・保有・使用などを全面的に禁止し、日本は参加していない
- (6) 非核三原則「持たず、つくらず、()」の()にあてはまる語を書きなさい。 _____
- (7) 日本に、核兵器のない世界を世界にうたえる役割があるといわれるのは、なぜですか。「原子爆弾」「被爆」の語を使って書きなさい。

6 日本の国際協力について答えなさい。【12・13ページ】

- 7 ちがう文化とこれからの社会について答えなさい。【14・15ページ】

- (4) SDGs が採択された年と、達成をめざす年の組み合わせとして、正しい物を1つ選びなさい。
ア 2000年・2015年 イ 2015年・2050年 ウ 2015年・2030年 エ 2030年・2050年
- (5) SDGs のかけ声として、正しい物を1つ選びなさい。
ア かけがえのない地球 イ 配るより、育てる ウ 持たず、つくらず エ だれ一人取り残さない
- (6) 海に流れこむプラスチックのごみを減らすため、買い物で自分の袋を使います。この行動は、SDGs のどの目標に最も近いですか。1つ選びなさい。
ア 目標4 海の豊かさを守ろう
イ 目標4 質の高い教育をみんなに
ウ 目標5 ジェンダー平等を実現しよう
エ 目標16 平和と公正をすべての人に
- (7) 将来の世代の人々の暮らしをそなわずに、今の世代の人々の必要を満たすことのできる社会を、何といいますか。 _____

8 まとめ（ステップチャート）について答えなさい。【2～16ページ】

- 19

覚えることの一覧（何も見ずに書けるか、紙でかくして確かめよう）

貧困と難民（2～5ページ）	
貧困・飢餓	貧困＝生きるのに必要な物を十分に得られない状態。飢餓＝栄養が不足して健康や命がおびやかされる状態。わけ＝人口の急な増加・食料のかたよ り・紛争や自然災害・収入が不安定。貧困の悪循環
解決の取り組み	フェアトレード＝適正な価格で続けて買う。マイクロクレジット＝担保なしで少しのお金を貸す。効率と公正
難民	難民＝迫害や紛争をのがれ、国境をこえてにげた人々。国境をこえない人は国内避難民。難民条約（1951年・日本は1981年）。UNHCR（保護し、食 料などを届け、帰国や定住を助ける）。緒方貞子。解決の3つの道＝帰る・とどまる・第三国定住

地球環境とエネルギー（6～9ページ）	
地球温暖化	温室効果ガス（二酸化炭素・メタン）が増えて気温が上がる。海面の上昇・異常気象。ほかの問題＝酸性雨・オゾン層の破壊・砂漠化・熱帯林の減 少
国際協力	国連人間環境会議（1972年）・地球サミット（1992年・リオデジャネイロ・気候変動枠組条約）・京都議定書（1997年・先進国に義務）・パリ協定 （2015年・すべての参加国）。緩和策＝ガスを減らす／適応策＝被害に備える
エネルギー	化石燃料＝出す・限る・かたよる。石油危機（1973年）。福島第一原子力発電所の事故（2011年）。再生可能エネルギー＝太陽光・風力・地熱・水 力・バイオマス。省エネルギー。4つの見方＝安全・安定して届く・費用・環境

紛争と核兵器（10・11ページ）	
紛争	冷戦の終わり（1989年）。地域紛争・テロ・同時多発テロ（2001年）・新しい戦争。地雷と対人地雷禁止条約（1997年）
核兵器	軍縮。部分的核実験禁止条約（1963年）・核拡散防止条約（1968年・5か国のほか）・包括的核実験禁止条約（1996年）・核兵器禁止条約（2017年・ 全面的に禁止）。非核三原則（1971年）。唯一の戦争被爆国

日本の国際協力（12・13ページ）	
ODA	政府開発援助＝お金と技術の援助。アジア中心。JICA＝ODAを行う機関。青年海外協力隊。課題＝住民と自然・届いているか・財政
NGO など	NGO＝政府から独立した民間の団体（国境なき医師団）。人間の安全保障＝一人一人の命や暮らし、尊厳を守る。憲法は一度も改正されていない

多様性と持続可能な社会（14・15ページ）	
文化の多様性	宗教と暮らし（イスラム教＝豚肉を食べない・ヒンドゥー教＝牛肉を食べない）。偏見と差別。異文化理解。多文化共生
SDGs	持続可能な社会＝将来の世代の暮らしをそこなわずに今の世代の必要を満たす。SDGs＝2015年採択・2030年まで・17の目標・だれ一人取り残さな い

合言葉	
「貧しさは、いくつも重なって起こり、くり返す」／「公正な値段で買い、担保なしで貸す」／「国境をこえてにげれば難民、守るのは UNHCR」／「帰る・とどまる・移 る、負担はみんなで分け合う」／「ガスが増えれば熱がこもる」／「京都は先進国、パリはすべての国」／「化石燃料は、出す・限る・かたよる」／「くり返し使えるが、天 気まかせ」／「冷戦の後は、地域紛争とテロ」／「持たず、つくらず、持ちこませず」／「ODA は政府から、JICA が人を送る」／「国だけでなく、一人一人を守る」／「ち がいを知って、認め合う」／「2030年へ17の目標、だれ一人取り残さない」	

確認問題の答えと解説

1【2・3ページ】

(1) 飢餓 (2) ウ (3) (例) 読み書きや計算、技術が身につかず、収入の多い仕事につけないから。(4) フェアトレード (5) エ
(1) 食べ物が足りず、栄養が不足して、健康や命がおびやかされる状態。(2) ア・イ・エは貧困が起こるわけ。世界全体では、すべての人が食べていくのに必要な量を上回る穀物が生産されている(かたよって届かない)。(3) 入れる語「読み書き」「仕事」。貧困の悪循環(②→③→④)。(4) 適正な価格で、続けて買う取り組み。(5) 約束した値段より安くは買われないので、市場の値段が下がった年も収入が安定する。

2【4・5ページ】

(1) ア、ウ (2) 国内避難民 (3) ウ (4) エ (5) ア (6) (例) 難民の多くは近くの国ににげるので、その国に住まいや食料などの負担が集まるから。
(1) 紛争(内戦)と、人種・宗教などを理由とする迫害をのがれて、国境をこえてにげるのが難民。(2) 国境をこえずに、同じ国の中のほかの地域ににげた人々。国境をこえれば難民。(3) 難民を保護し、食料・テント・医療などを届けるのは UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)。(4) 難民を、命や自由がおびやかされる国へ無理に送り返してはならないことなどを定めた難民条約。(5) 解決の道は、帰る・にげた先で暮らし続ける・ほかの国に移る。命の危険がある国へ送り返してはならない。(6) 入れる語「近く」「負担」。国々で費用と受け入れを分け合う(国際協調)。

3【6・7ページ】

(1) ア、エ (2) イ、エ (3) 砂漠化 (4) エ (5) イ (6) (例) 温暖化の原因の多くは、昔から化石燃料を大量に使ってきた先進国にあり、途上国は経済発展のためにエネルギーが必要だ。
(1) 温室効果ガスは、二酸化炭素・メタンなど。酸素と窒素はふくまれない。(2) 温暖化の影響は、海面の上昇と異常気象。アはオゾン層の破壊、ウは酸性雨。(3) 放牧のしすぎ・畑のつくりすぎ・木の切りすぎや干ばつで、草や木の育たない土地が広がる。(4) 1992年にリオデジャネイロで開かれた国連環境開発会議(地球サミット)。1972年のストックホルムの会議は国連人間環境会議。(5) 京都議定書は、先進国に減らすことを義務づけた。途上国には義務がなかった。(6) 入れる語「昔から」「経済発展」。先進国と途上国の言い分(7ページ)。

4【8・9ページ】

(1) ア (2) (例) ほとんどを輸入にたよっているため、値段が大きく変わると、電気をつくる費用などに大きな影響が出るから。(3) ウ (4) エ (5) バイオマス (6) イ
(1) 化石燃料の課題は、二酸化炭素を出す・限りがある・とれる場所がかたよる。天候で発電量が変わるのは太陽光や風力。(2) 入れる語「輸入」「値段」。(3) 少ない燃料で多くの電気をつくれるが、事故の被害が大きく長く続くのは原子力。(4) 天然ガスは化石燃料。地熱・太陽光・風力は自然の力でくり返し使える。(5) 生物からできる物を燃料にする再生可能エネルギー。(6) 輸入先を1つの国にたよらず、いつでも必要な量を手に入れる見方は「安定して届く」。

5【10・11ページ】

(1) ア (2) 同時多発テロ (3) 地雷(対人地雷) (4) ウ (5) エ (6) 持ちこませず (7) (例) 広島・長崎に原子爆弾を落とされた、唯一の戦争被爆国だから。
(1) 冷戦の後は、民族や宗教のちがいが、資源をめぐり、国の中や近い国の間の地域紛争が増えた。イは冷戦中。(2) 2001年にアメリカで起こった同時多発テロ。(3) 1997年に NGO の働きかけで対人地雷禁止条約が結ばれた。(4) 1968年の核拡散防止条約(NPT)。アメリカ・ロシア・イギリス・フランス・中国の5か国のほかの国が核兵器を持つことを禁止。(5) 2017年に採択され、核兵器の開発・実験・保有・使用などを全面的に禁止した。日本は参加していない。(6) 1971年に国会で決議した日本の方針。(7) 入れる語「原子爆弾」「被爆」。

6【12・13ページ】

(1) ウ (2) イ (3) ウ (4) 国境なき医師団 (5) (例) 住む場所を失う住民や、周りの自然への影響に気をつける。

(1) 日本の ODA を行う機関は国際協力機構 (JICA)。(2) 知識や技術をもつ人を途上国に送り、現地の人と一緒に働きながら教えるのは青年海外協力隊。(3) ODA は政府が行い、NGO は政府から独立した民間の団体が行う。(4) NGO の例。紛争や災害が起きた地域で医療を行う (1999年にノーベル平和賞)。(5) 入れる語「住民」「自然」。

7【14・15ページ】

(1) ア (2) 多文化共生 (3) (例) 偏見や差別が生まれ、対立や紛争の原因になりやすい。(4) ウ (5) エ (6) ア (7) 持続可能な社会

(1) ヒンドゥー教は牛を神聖な動物とし、牛肉を食べない (インドに多い)。(2) 国籍や民族などのちがう人々が、たがいの文化のちがいを認め合い、地域の一員としてともに生きること。(3) 入れる語「偏見」「対立」。(4) 2015年に国連で採択され、2030年までの達成をめざす。(5) SDGs のかけ声は「だれ一人取り残さない」。(6) 海のごみを減らし、海を守る行動なので、目標14「海の豊かさを守ろう」。(7) 将来の世代の暮らしをそこなわずに、今の世代の必要を満たす社会。

8【2～16ページ】

(1) 地球温暖化 (2) 多様性 (3) (例) これらの問題は国境をこえて広がるので、一つの国だけでは解決できず、国々などが協力する必要があるから。

(1) 温室効果ガスが増えて地球の平均気温が上がるのが地球温暖化 (6ページ)。(2) 文化の多様性を認め合うことが、多文化共生につながる (14ページ)。(3) 入れる語「国境」「協力」(1・16ページ)。